K師の重賞本命と見解『阪神大賞典・スプリング』

阪神大賞典

末脚を持続できるスタミナが重要。

芝中長距離向きの末脚に優れたサンデー系。
父サンデー系(大系統)で母父が欧州型かノーザンダンサー系(大系統)が
走りやすく、戦歴も近走で上位の上がりを出している馬が強いレース。

過去 5 年でも、馬券になった 15 頭中 11 頭が前走上がり 5 位以内。
そのなかでも近 2 走で上がり 1 位の経験もあった馬が良い。
もう 10 年以上この傾向は続いています。

本命はマカオンドール。

父ゴールドシップ。母父も欧州指向強いダルシャーン。
中距離のスピード馬場では追走できずに高いパフォーマンスを
発揮できない血統ですが、阪神大賞典のような舞台設定であれば、
息の長い末脚を持続できます。

ディープボンドはほぼ崩れないので、この 2 頭で。

3 着以内の確率が次に高いのは
すでに当レース実績もあるトーセンカンビーナ。

スプリングステークス

戦歴、血統ともにマイル以下に実績を残すタイプ。
短距離、米国指向が強い血統馬が走りやすいレース。

2019 年 10 番人気 1 着エメラルファイトは父が米国型のクロフネ。
2 着ファンタジストの父ロードカナロアはいずれも
スプリントG1勝ち馬を出した種牡馬。

ヘイローのクロス馬にも注目。

2021 年 7 番人気 2 着アサマノイタズラは母父がキングヘイロー。
ヘイローのクロスが濃い馬。

2018 年 6 番人気 3 着マイネルファンロンも
父がサンデー系(大系統)で母父がヘイロー系。
短距離指向の要素を強化するヘイローのクロスを持つ馬。

本命はソリタリオ。

父モーリスは昨年のスプリンターズステークスを勝った
ピクシーナイトも出したように、主流種牡馬に比べて
小回りや短距離の適応力が高い血統。

近親には 2 歳の中山芝マイル G1 勝ち馬のフサイチリシャール。
母父キングカメハメハも産駒からスプリント G1 勝ち馬を輩出。

母系からスピードを受け継ぎ、父系からはグラスワンダーの
母父であるダンチヒのパワー要素が出た馬なので、
初めての直線が短いコースへの出走で上積みも見込めます。
マイル重賞実績も当然強調材料。

相手妙味はディオ。

母父は非根幹距離の鬼マンハッタンカフェ。
マイル以下を使われ続けている経験、
母系も短距離指向が強いのも当レース向き。

馬場がタフになって馬群が
バラけやすくなるのも能力発揮には好都合。